

“なるせの郷”職員2名死亡確認、行方不明1名

3月14日午前、松島医療生協の職員の方より、居宅介護支援サービス“なるせの郷”職員の死亡が確認され、同じく同職員が行方不明になっているとの報告がありました。

地震発生とともに、避難所になっている隣接する鳴瀬小学校に避難しましたが、津波によって、なるせの郷の建物すべてと鳴瀬小学校が流されたことによるものです。また、同施設の利用者さん17名中6人の生存を確認、残り11名は死亡及び行方不明とのことでした。鳴瀬小学校に避難した避難者のうち、数十名が行方不明とのことでした。

民医連職員として、ともに医療活動に取り組んでこられ、地域で頑張っておられたことに敬意をあらわすとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

職員の死をむだにせず
この困難を乗り越えよう

巨大地震によって職員の犠牲者が出てしまいとても残念です。ただ若い職員が出勤途中で今日も頑張ろうと言って職場に向かいました。多くの職員が家屋の片付けが終わらず、子どもことを気かけながら出勤してきています。まだ終りの見えない困難な状況は続きますが、全国からたくさんの支援の方がみえています。団結して頑張りましょう！

水道、ガスなどの復旧の見通しはたたず



坂総合病院で開催された地域対策本部

3月14日午後2時から坂総合病院で、行政・病院・医師会などが結集して地域対策本部を立ち上げました。

参加したのは、塩釜市、多賀城市、利府町、塩釜医師会、薬剤師会、保健所、救急隊、自衛隊、市立病院、坂総合病院、エキサイ会病院、仙塩病院、赤石病院などです。病院代表からは酸素ボンベやお薬などが不足していること。ライフラインでは、水道・ガスの見通しはたっていない（塩釜市）。水道管本管の破裂により復旧には数週間かかる（多賀城市）等報告されました。

在宅の患者さんを訪問



吸引する岡安医師と郷古看護師

東京東葛病院から支援に来た岡安智道医師と坂病院の郷古洋子看護師は、脳梗塞、寝たきり患者さんの自宅を午前中に6軒の訪問しました。

電気が消えて吸引器が使えず不安だったなどの声が聞かれました。岡安医師は、「訪問して無事を確認できて何よりでした」と話していました。

地域を照らす病院として



3月13日、午後11時25分、坂総合病院の明かりが点灯しました。対策本部では、手を取り合い、歓声をあげて喜びあいました。これで一歩前進した対策がとれます。（点灯した坂総合病院・14日午前0時5分 神馬 悟 撮影）